
エタノールに咲く花

村上 峻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エタノールに咲く花

【Nコード】

N7870A

【作者名】

村上 峻

【あらすじ】

修司は中学時代の恋人佳奈子の変わり果てた姿を目にする。

第1話

修司へ

だんだん春らしい気候になってきましたね。

そろそろ中央公園の桜も花を咲かせるんじゃないかと思うと、嬉しくなります。

もう一緒に下校することもないし

ほとんど会うこともなくなるんだなって思うと

修司のことが恋しくてたまらなくなっ

て手紙を書いてしまいました。

卒業式の日、修司と別れた後

悲しさとか、懐かしさとか、いろんな感情が一気に押し寄せてきて、どうしていいかわからなくなっ

て私が、心の中で何回も何回も修司の名前を叫んでたことなんて、修司は知らないと思います。

修司と私の高校は反対方向だし、どっちの高校もこの街から離れてるから

もうあまり修司と会うことがないと思うと寂しいです。

修司に幸せな高校生活が待っていることを祈っています。

元気でね

2003年 3月27日 木下 佳奈子

ドアが開いたと思ったら、消毒液の匂いがエレベーターの箱の中に押し寄せてきた。

建物は古く、床は固く冷んやりとしていて、廊下の両側の壁には、ひび割れのような、水がしたたり落ちた後のシミのようなものに付く。

右後ろのあたりがナースステーションになっていて、看護婦が足を組んで受付の机の帳簿に何か書き込んでいるのが見える。

廊下の左右には背もたれのないベンチが置かれていて、点滴を取り付けた青いパジャマの老人が座っている。僕が通り過ぎるとその老人は、悲しみの色を浮かべた顔で僕を見上げた。

左の壁の真ん中の部屋の横開きのドアが開いていて、廊下から中の様子が伺える。

入り口に近いベットの男性が文庫を読んでいるようだ。背表紙にはアメリカの広大な畑と、その空を飛ぶ飛行機の写真が載せられている。

突き当たりの左側の部屋のドアの取手にホワイトボードが取り付いてあって、黒いマジックで患者の名前が書かれている。

僕はホワイトボードの中に、知っている名前を見つけて部屋の中に入った。

入ってすぐ右側のベッドでは、おばあさんが片耳のイヤホンでラジオを聴いている。顔には水色のタオルが掛けられていて表情は見えないが、イヤホンからはわずかに音が漏れている。

突き当たりの窓からは、この建物よりも背の低い別の病棟が見える。やはり老朽化が進んでいて、ところどころ排水官の色が茶色に変わっている。

奥の左側のベッドが、天井からつり下げられたUの字のカーテンレールに沿って、カーテンで覆われている。

中で診察をしているのかと思って、しばらく様子を見ていたが、カーテンの中からは物音一つしない。

僕はしびれを切らして、カーテンをそつとまくり上げカーテンの内側に入った。

ベッドには誰も寝ていない。

小さな備え付けのテーブルに、お菓子のゴミが置かれている。

ベッドと窓の間の 座椅子に黒い縁取りがついている、丸イスの上に、人形のように静かに人間が座っている。

頭を左肩にのせるようにして首をだらりと真横に折り曲げ、肌は病的に白く、顔に表情が無い。

佳奈子だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7870a/>

エタノールに咲く花

2011年1月27日05時24分発行